

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0272101015		
法人名	有限会社サニーライフ		
事業所名	グループホームサニーライフ		
所在地	〒038-2501 青森県西津軽郡深浦町柳田字桜田34-5		
自己評価作成日	平成25年9月30日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ホールの大きな窓には、色とりどりの四季を感じる日本海が広がり、居室の窓には、馴染みの五能線の電車が走ります。社会の先輩に尊敬と感謝の心で向き合い、コミュニケーションを大切に努めております。1日の始まりが「おはようございます」の言葉で始まり、楽しみながら歩行運動や軽い体操、レクリエーションを行うなど寝たきり予防や現状維持に努めております。また、入眠時には「おやすみなさい。また明日」と言う入居者同士の挨拶の声が聞こえています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成25年11月8日		

海・山と自然に囲まれ快適な環境であり、近隣、他事業所も含め、地域との繋がりを積極的にもち支援している。リハビリを兼ねたレク活動を継続し健康維持に努めており入居者もまた、毎日楽しんで取り組む様子がある。災害への対応も万全で訓練・物品等の準備など体制が整っている。居室環境・計画書においても個々の思いを反映し個性がある。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホームに掲示し、管理者と職員は入居者が何を求めているかに気付き、理念の実践に取り組んでいます。	職員も一緒に作りあげた理念であり、申し送りや定例会議で問題があった際は理念を振り返り解決しそれを機会に、改めて職員間で確認・共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区集会所の活動に参加したり、地域の方から野菜や山菜を届けて頂くなど交流を大切にしています。	毎週、近くの集会所で町主催の「生きがい活動支援」があり、活動内容にもよるが2名位ずつ参加している。レク活動中心で入居者も楽しみにしている。地域の子供が減少したこともあり、学校行事に関しては中止になる活動も増えてきている。	更にホームが独自の情報発信の場となり地域との交流機会を作ることで、より一層入居者の生活の質・職員のケア向上につながることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の生きがい活動に参加したり保育園、小学校、中学校の運動会や学習発表会に出席した際に援助方法を観ていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の結果を全職員が確認し、そこでの意見や情報を活かせるように話し合いサービスの向上につなげています。	包括支援センター、民生委員、家族中心に毎月実施している。地区の婦人会・活動についてや行政代表(包括支援センター)からは他の事業所の情報をもらい学ぶ機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、町の地域連絡会議に出席し連携を密にしてサービスの質の向上に取り組んでいます。	包括支援センター主催で、グループホーム・特別養護老人ホームなどの事業所が出席、情報交換しながら繋がりができている。勉強にもなり内部研修も兼ね職員へ報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないためのケアに関するマニュアルを全職員が持ちいつでも確認できます。玄関出入りの際、チャイムは鳴るがいつでも外に出ることができます。ベットはその人に合わせ、柵で囲まないように工夫をしています。	できるだけ柵は使わない様に環境を工夫している。ソファの位置なども動線や居心地を第一に考慮し配置されている。スピーチロック「ダメ」「待って」を使わない様心掛けています。定期的に内部研修・会議で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修には積極的に参加し、虐待防止に取り組んでいます。内部研修にも取り入れて「虐待」の理解に努め遵守に向けた取り組みを行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業を活用しています。全職員が、勉強しながら支援を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行い同意を得ています。解約時には、本人や家族の希望に添うように配慮をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に入居者とのコミュニケーションを取りながら聞くようにしています。又、家族からの意見や要望も全職員で話し合いをして改善に努めています。	意見は随時申し送り簿へ記載し、会議での提示にて全職員へ伝達し把握し改善している。電話連絡は管理者中心だが毎月請求書と一緒に担当職員が入居者の近況報告コメントを作成し、送付し家族と職員が繋がる環境を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、必要に応じて職員から意見を聞き運営に活かしています。	代表者・職員が年1回話し合える機会を作っている。その他、統括責任者もこまめに訪問し、職員は何でも意見が言える環境・雰囲気がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、全職員の勤務状況を把握し各自のやりがいや向上心を持って働けるよう対話を持ちながら配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は、勤務年数に応じて外部研修に出席しています。又、内部研修を設け月に一度勉強会を開催し全職員でケアの向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	計画作成者と職員は、行政の主催する会議や勉強会に出席し同業者との交流を深めています。それを他職員に伝えサービスの質の向上に活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			ru		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面会時、本人と家族の希望を聴き、要望に耳を傾けています。不十分な点に関しては、再度連絡をとるなどしながら関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の生活状況を知り家族の不安や要望などに耳を傾けて安心できるような関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの中で最初に何が必要かを見極めて支援を始めています。行政や医療機関、他事業者からも情報提供を受けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを取りながら得意、不得意を見つけ出し一緒に共有して行なうように心がけています。入居者同士もお互いに思いを言える雰囲気が出ています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の心身の変化や行動、習慣など分からないことは、家族に連絡を取っています。一緒に本人を支える関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人、知人に逢いに来ていただいたり出かけたりしています。通院の際、立ち寄りや馴染みが切れないように支援しています。	日頃、会話の中から馴染みの環境について聞き出しながら自宅・店などへ出掛ける機会を作っている。積極的に友人に会わせようと協力してくれる家族もいる。地域行事(地域伝統の慣わし)を大切にし外出支援できている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係は良く、会話が多く聴かれます。喜怒哀楽も素直に出せる支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され他の施設へ入所されても心身の状態やケアの情報交換を行なっています。家族を見かけた際には、声をかけ近況を聞いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに担当者がいて思いや意向などを聴き、把握するようにしています。会議などに全員の情報交換をして共有し支援を行うようにしています。	担当者中心に会話の中から意向を引き出し、会議前には特にこまかな希望を確認し、情報を共有しプランへ反映している。車輛の完備ができており、随時買物等の希望があった際は対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、必要に応じて在宅で担当した支援事業者などからも情報を得ています。早く穏やかに過ごせるように配慮をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族から1日の過ごし方を聴き、把握に努めます。援助に時間がかかってもその人らしさを引き出せるような支援を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、関係者、職員の意見などを基本に工夫をしています。本人の好む過ごし方や生活に役割を持たせ、生きがいにつながるよう計画を作成しています。	職員全体で確認しながら、計画書を作成している。一人ひとりに合わせた個別性のあるプランであり本人の意向が重視されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、本人の言葉やケアの実践の結果を記録し情報の共有をしている。それを介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況や要望を軸に対応が困難な場合は、臨機応変に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や地域包括支援センターから周辺情報や支援に関する情報を頂き協力関係を築いています。地域の保育園、小学校、中学校の運動会などの行事に出かけ交流を深めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望された医療機関を利用しています。本人の思いを聴きだし事業所に適切なアドバイスをしてくれます。	希望の医療機関が利用できている。その他、処置方法・救急搬送についてなど随時、医師や看護師へ確認し、相談しながら、適切な対応が出来る環境である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の血圧、呼吸、体温など表情の変化を見逃さないように早期発見に取り組んでいます。気付いたときには、かかりつけ医の看護師に相談しながら対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へ情報提供し、安心して治療が出来るように努めています。本人との面会時は、励ましたり家族への情報提供も密に行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、本人と家族に重度化した場合についての説明をしています。本人と家族の希望を受け、かかりつけ医や看護師と連携をとりながら支援を行っています。	看取りケアについては原則していないが、重度化した場合の体制(他事業所と連絡し合い準備)が円滑に進む様に努め、家族と確認しあっている。また、夜間でも診療所の看護師からの指示を仰ぐことができるようになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、避難訓練や救急法、消火器の使用方法などの指導を定期的に受けています。全職員が実践力を身につけるよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町の災害訓練に参加したり自主的な訓練も計画、実施しています。近隣との協力体制も築いています。スプリンクラーも設置しました。	過去の大きな災害経験から年1回、他施設・学校・行政含めての一斉避難訓練に参加している。ホームでは、今年から年2回の訓練から毎月実施するようになり、夜間の想定や電話通報については近隣に参加を呼びかけ手伝ってもらっている。全職員が責任・役割をもち訓練している。防災時の持ち出し袋の準備も徹底されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格を把握し言葉や声のトーンを下げ、その人にあつた対応を心がけています。職員は、プライバシー保護のため同意書に署名捺印し自覚を持っています。	日常、トイレへの声掛け時などに配慮している。プライバシーについての内部研修を実施し、意識の確認を行っている。また、居室入口にはのれんを使用しプライバシーが確保できる空間が作られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを傾聴しながら表情や反応を把握しています。その人らしい日常生活が送れるように難聴の人には、ホワイトボードに書きながら自己決定の支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、一人ひとりのペースに合わせてその人らしさを失わないように工夫しています。好きなテレビドラマや新聞を読む時間にはさりげなく声をかけるなどの支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みや意向を尊重しています。玄関前の大きな鏡で身だしなみや整髪をしたりその人らしさを引き出せるよう支援しています。その人の好みの洋服を把握するよう心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、その人の意向を確認しながら食べたいものを用意したり、行事食も取り入れ喜んで頂けるよう工夫しています。畑の野菜や山菜の下ごしらえもお手伝いして頂き、昔なじみの作業のようです。	裏の畑から収穫したものを手伝ってもらいながら調理を楽しんでいる。行事食は全員が楽しめるよう配慮し、毎食職員・入居者一緒に同じ食事をいただいている。食後の談話が和やかであり、ゆっくり過ごせる雰囲気がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の状態に合わせた量や切り方、栄養バランス、盛りつける器にも工夫をしています。1日の水分量や総摂取量などもさりげなく把握するように心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄とうがいをして口腔内の清潔を保持しています。夜間は、除菌剤で消毒を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツを使用してもその人の生活リズムに合った時間の配慮をトイレ誘導を行なっています。衣類の上げ下げにも声をかけながら自立支援に向けた支援をしています。	排泄チェック表を活用している。おむつ・リハビリパンツの使用から改善されたケースがある。職員の手間よりも本人の思いを優先し変更しながら工夫し、検討しあっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行や軽体操を毎日行ったり、一人ひとりの水分摂取量の把握や調理にも工夫をしています。職員間で情報の共有をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	裸になることへの羞恥心や不安、恐怖心を考慮しながら一人ひとりの希望する時間や順番に入浴できるように考慮しています。	曜日は決まっているが、人員を確保し季節や希望に合わせてながらもいつでも入浴できる体制がある。毎日足浴も実施し、快適に過ごせるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、ホールで他の入居者と活動をしている時間が多く、その他の時間には、1人ひとりの時間の使い方を行っています。夕食後は、早めに入室してそのまま就寝できるように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の記録ファイルに薬の説明書を綴り、常に確認できるようにしています。変更時には、申し送り簿に記入し全職員が把握しています。服薬後は、状態の変化に気づけるように見守りを行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活歴を考慮しながら洗濯たたみや食事作り、茶碗拭き、ゲームなどを職員と一緒にしたり、見守りをしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、施設周辺の散歩や日光浴を楽しんだり地域の名所めぐりを楽しみます。遠方の外出を希望するときには、職員や家族と相談しながら工夫をしています。	季節を楽しめる全員での外出支援、また、2～3人で気軽に出かけたり、家族の協力を得ることもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関心のある入居者は、一人で管理の出来る範囲の小遣いを所持しています。関心の無い入居者は、家族の同意のもとで施設が管理をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物や手紙が届いたときに御礼の電話をする際は、本人の喜びの声を聞かせます。日常報告をするときや本人が希望したときなど支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のテレビや音楽の音量は、そのときの状態に合わせるなどの配慮をしたりブラインドで光の調節を行なっています。季節の食材を取り入れた献立を作成したり、ホールに季節感を取り入れた飾りつけをしています。窓から日本海を眺めたり居心地良く過ごしています。	ホールからの一面日本海の眺めが良く、居心地の良さから日中ホールで過ごす入居者が多い。季節に応じた飾り付けや入居者の作品がある。ホールでのリハビリは楽しみとなっており明るく集える場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファは、気の合う入居者が隣に座るなど考慮して居心地を良くしています。玄関前や廊下にソファや籐の椅子、テーブルを設置するなど好みの場所で過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの物や好みの物、家族からの贈り物の飾りや写真などを置きくつろげるように雰囲気作りをしています。	大きな家具の持ち込みはないが、それぞれ個性が感じられる居室が作られている。のれんを使用し空間を仕切ることで落ち着いた印象がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の「できる事」に合わせベットにも変化を付けています。トイレの手摺には、赤や黄色のテープを巻いたり自立した生活が送れるように工夫をしています。		